

Ogihara

 オギハラ工業株式会社

脱炭素経済ネットワーク勉強会
SBT認定取得で見えてくるもの



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



01. 会社概要

01. 会社概要

会社名	オギハラ工業 株式会社		
創業	1924年4月		
拠点	本社・本社工場 三和第1・第2工場	：新潟県上越市新保古新田639 ：新潟県上越市三和区柳林563	
従業員数	約70名		
事業内容	農業・産業用機械、除雪用具等 開発・製造・販売 OEM機械製造（農業機械・搬送機器・その他機械）		
関連会社	株式会社エッジシステムズ（スキー・スノーボード用エッジ製造）		

製品例

自社製品 農業機械・除雪用品 ほか

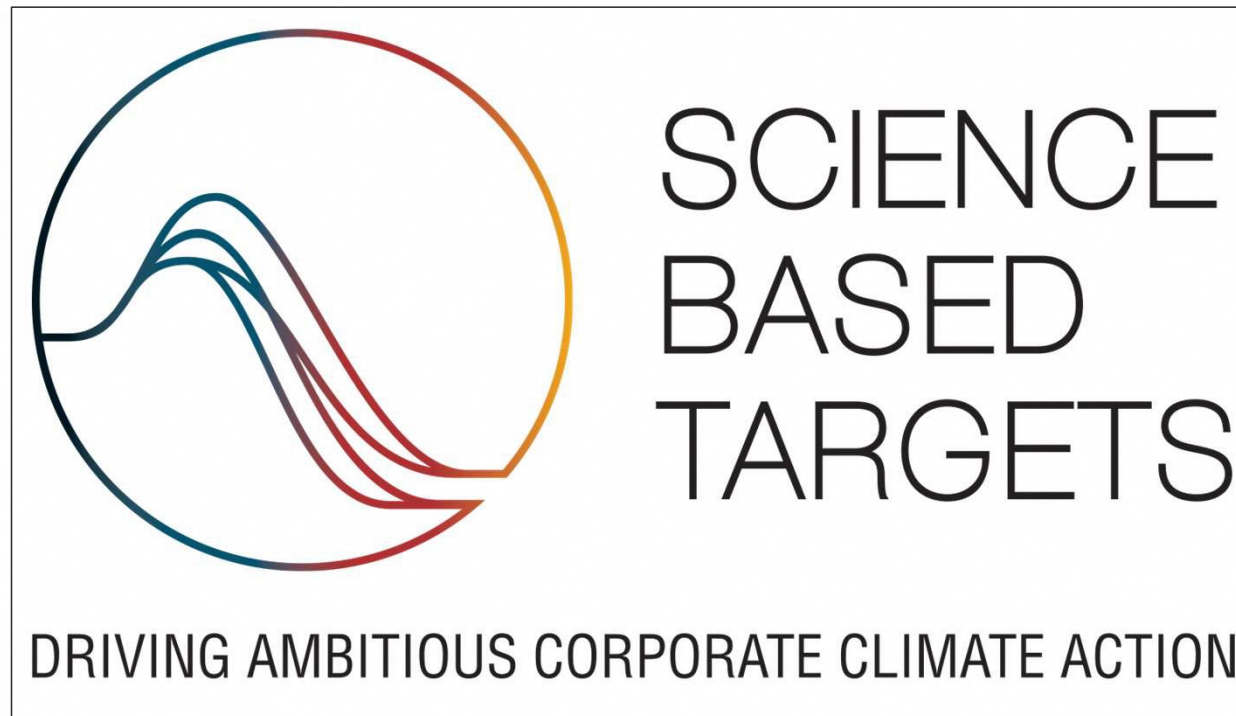


OEM部門



2026年2月

中小企業版SBT認定 取得



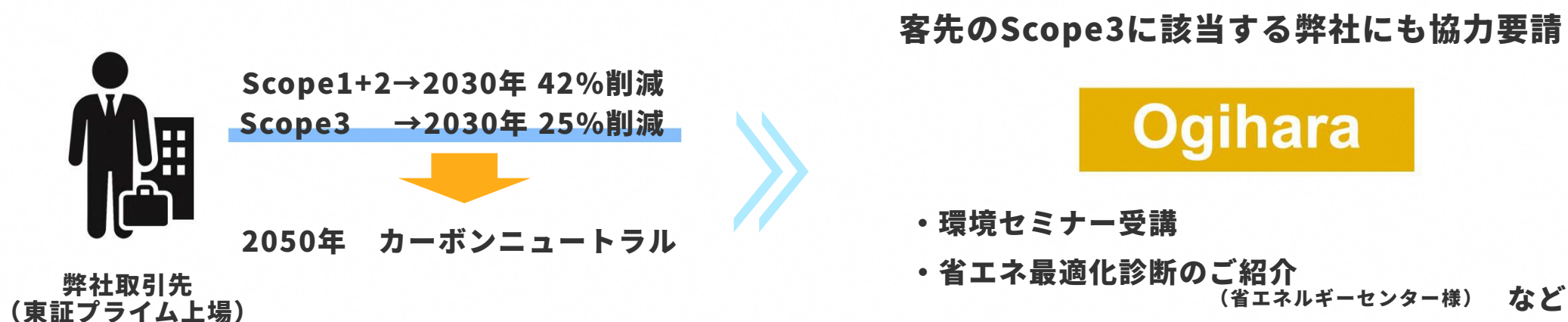
温室効果ガスの削減目標がパリ協定の目標に沿った科学的に妥当なものであると
国際的に認められた認定制度。



02.

脱炭素経営の始まり

02. 脱炭素経営の始まり



2024年

「SDGsリンクローン」(第四北越銀行様)

SDGsに関する挑戦目標を設定、達成状況に応じて適用金利が変更

オギハラ工業の脱炭素経営スタート



03. 現状の取り組み

03. 現状の取り組み



省エネ補助金該当の
レーザー加工機

稲作の中干し延長による
Jクレジットの購入



カーボンオフセット
LPガス購入（一部）



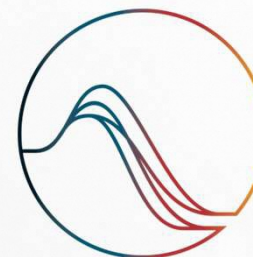
ソーラーパネル（111kw）

省エネ最適化診断
指摘7項目
↓
改善取り組み中



電力の100%を
再エネに切り替え

04.



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

認定の経緯

取得を考えた理由①

**目標を達成できなくても
認定が取り消されることはない**

理由①目標を達成できなくても認定が取り消されることはない

中小企業版SBT認定における目標設定値

基準年から10年間で
Scope1+2の総排出量を

42.0 % 削減

しかし、これはあくまで目標であり

取得後に計画未達成でも認定が取り消されることはない。

(当然、企業としては達成する努力は必要だが)

取得を考えた理由②

**中小企業版SBT認定で定める
基準値を満たす見通しが立っている。**

理由②中小企業版SBT認定で定める基準値を満たす見通しが立っている。

2024年に設定した目標

**売上100万円あたりのCO2排出量
(Scope 1+2)** **33.0 % 削減**

企業として、売上の拡大を目指すのは当然。

工場の稼働が上がればCO2は増えていく。

その理由から、当初は単位売り上げあたりのCO2排出量を管理項目としていた。

中小企業版SBT認定における目標値はScope1+2におけるCO2総排出量の**42%**

今までの単位売上あたりのCO2排出量というKPIは認められず、
当初は厳しい目標値に思えたが…

排出総量

31.8%削減

66.3%削減

基準年(2021年)

718 t

2025年

490 t

2026年 予想

242 t

(昨年と同額の売上とした場合)

- ・省エネ設備更新
- ・ソーラーパネル設置
- ・Jクレジット・カーボンオフセットLPガス導入※

※SBT認定においてクレジット等は適用対象外

- ・全電力を再エネプランに切り替え

2026年には総量でも基準年の50%以上の削減を見込んでおり、
取得後の目標達成が見えていた。

04.



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

取得後の活用について

まず、中小企業版SBT認定の取得は

脱炭素経営の入り口

脱炭素経営の一般的な流れ

○目標・活動計画を立てる



○目に見える形でビジョンを示す



○毎年の実績報告



自社だけでやれるのか？

スタートとなる過去の実績調査、目標や活動計画の設定など
自社単独で作成するには手間がかかる。

日常業務を行いながら計画を立てるのは心理的ハードルが高い。

目標・活動計画 → 外部の手を借りる。

金融機関やコンサル等との協力

新潟県の中小事業者脱炭素経営支援事業など補助金を活用 等

**補助金等の支援が豊富な今
中小企業にとっては始めやすい環境にある。**



= ブランド価値向上

企業としての社会的責任を果たそうとする姿勢は評価される。

**中小企業の取得が少ない今だからこそ、
認定取得だけで話題づくりの一環となる。**

(オギハラ工業の場合：セミナー講師の依頼、業界紙等での記事掲載など)

上場企業
自治体
金融機関



→ 取得するだけで評価

中小企業
消費者・学生・求職者



→ 積極的にPRしていく必要がある。
正しく内容を伝えられればリクルート活動で武器になる。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

求職者の会社選びの基準

社会的責任を果たしているか

注目度上昇 ↑

- ・ パリ協定に基づく国際的な認証
- ・ 自社の脱炭素の目標が世界基準で妥当であると認められた

学生

やりがい

保護者

安心感

最後に

SBT認定の認知度は今後ますます上昇してくる。

2050年カーボンニュートラルを目指す社会にとって、
企業の「脱炭素経営」は最低条件となるかもしれない。

取得に関する支援が豊富な今だからこそ。

やっている会社が少ない今だからこそ。

**中小企業版SBT認定を、
企業の新たな武器として活用していく。**



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

Ogihara

